

## 社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク 2012 年度 事業報告書

### <実施期間>

2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日

### <2012 年度の方針と報告>

1. 社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク（以下、本ネットワーク）として、あらゆる組織の SR（社会的責任）について NPO/NGO の視点から学習会、啓発事業、情報発信を実施、SR の普及に努める。

報告：SR フォーラム 2012 の開催、ISO26000 発行 2 周年 in ジュネーブ報告会、「社会的責任に関する円卓会議」（以下、「SR 円卓会議」）報告会、ホームページの充実等、積極的に SR の普及に努めた。

2. SR の普及の一環として、より多くの NPO/NGO の参加促進策をとる。特に、地域の会員団体の参加が得られるよう地域幹事団体体制の活用と、事業間の連携強化に取り組む。

報告：SR フォーラム 2012・総会には関西・名古屋の会員団体の参加があったが、地域幹事団体体制の活用には至らなかった。

3. JIS 規格となった ISO26000 の普及活動や SR 円卓会議において、ステークホルダーの一員として他セクターと対話を行う際に NPO/NGO のステークホルダーとして、本ネットワークの代表協議者が参加し、その内容を NPO/NGO 関係者に知らせる。

報告：SR 円卓会議に代表協議者として出席・参画を行った。また、NGO/NPO 関係者向けの報告会を 2 回開催し、NPO/NGO 関係者と議論する場の開催を行った。

4. 東日本大震災後の復興に関する取り組みにおけるマルチステークホルダーの実践に向け、可能な範囲での助言・側面支援に努める。

報告：会員組織が各々、被災地の団体等と連携しながら復興支援活動にあたったが、本ネットワークとしての取り組みには至らなかった。

## <2012 年度の事業報告>

### 1. 啓発事業

#### [主旨]

ISO26000 の活用をはじめとする SR についての検討と学習機会づくりや、SR 円卓会議の各ワーキンググループ・協働事業などの動きを報告・共有するとともに、企業の社会的責任（CSR）への取り組みを促す協働や、NPO/NGO 自身の社会的責任への取り組みを促すための進め方や工夫など、日本における「SR のあるべき姿」について検討・学習する機会を、政策提言事業や各会員団体の事業等と連携しながら設ける。また、各地で開催される学習会などに講師を派遣する。

[担当幹事団体] 環境パートナーシップ会議、NPO サポートセンター、ダイバーシティ研究所、参画プラネット

#### [実施報告]

##### (1) 本ネットワークの政策提言につながる事業の共有、情報提供

- ・ SR フォーラム 2012 「社会的責任(SR)から社会的信頼(SR)へ～マルチステークホルダープロセスで実現する持続可能な社会」

日 時：2012 年 5 月 17 日（木） 10:30～17:40、18 日（金） 13:00～17:15

参加人数：91 名

テ ー マ：全体会「マルチステークホルダーエンゲージメントが導く問題解決～  
地域・国際的な視点から人権の主流化を目指して」

他 9 分科会

登 壇 者：白石 理さん（一般財団法人アジア・太平洋人権情報センター）  
石井 花梨さん（社会福祉法人カリヨン子どもセンター事務局長）  
秋山 映美さん（株式会社ラッシュジャパンキャンペーン担当） 他

- ・ 社会的責任に関する円卓会議(SR 円卓会議) 報告&意見交換会

日 時：2012 年 10 月 16 日（火）、23 日（火） 18:30～21:00

参加人数：16 日 23 名、23 日 19 名

テ ー マ：16 日 人を育む基盤の整備ワーキンググループ

報告者： 黒田 かをり（CSO ネットワーク事務局長）

持続可能な地域づくりワーキンググループ

報告者： 川北 秀人（人と組織と地球のための国際研究所代表）

23 日 ともに生きる社会の形成ワーキンググループ

報告者： 田村 太郎（ダイバーシティ研究所代表理事）

地球規模の課題解決への参画ワーキンググループ

報告者： 堀江 良彰（難民を助ける会事務局長）

- ・「ISO26000 発行 2 周年フォーラム in ジュネーブ」参加報告会  
～世界の ISO26000 の取り組みを知り、日本での普及を考える～  
日 時：2012 年 12 月 18 日（火）17:00～19:00  
参加人数：29 名（幹事団体を含む）  
テ ー マ：ISO26000 発行 2 周年オープンフォーラムの報告  
フロアディスカッション  
報 告 者：熊谷 謙一さん（日本 ILO 協議会編集企画委員）  
富田 秀実さん（ソニー株式会社 CSR 部統括部長）  
黒田 かをり（CSO ネットワーク事務局長）

#### （2）SR セミナーのコンテンツ・パッケージづくり

2012 年度はコンテンツ・パッケージづくりのための検討をすることができなかった。2013 年度に継続して啓発チームにて検討を行う。

#### （3）SR セミナーの開催呼びかけ

実施には至らなかったため、2013 年度に継続して啓発チームにて検討を行う。

#### （4）下記イベントへの共催・後援

- 2 月 15 日 環境 NGO・NPO と CSR 担当者の交流会「グリーンサプライチェーン構築への取組み」  
主催：独立行政法人環境再生保全機構、一般社団法人環境パートナーシップ会議
- 3 月 18 日 セミナー「市民視点から考える CSR と人権」  
主催：一般財団法人 アジア・太平洋人権情報センター

## 2. 情報発信・広報事業

### [主旨]

国際社会において、そして国内では産業界や政府機関などの他セクターが SR への関心を高めている中、NPO/NGO が意識を高め、行動に移すことは、社会的な信頼を得て、他セクターとの対話を促す上で必須である。そのために、本ネットワークは SR の概念浸透、NPO/NGO 間の連携、議論のプラットフォームづくりを目的に情報を発信する。

「啓発事業」や「政策提言事業」に関する情報を中心に、ウェブサイトやメーリングリストを通じた、タイムリーな発信を行う。また、より強固なネットワーク組織を目指し、会員獲得に努める。

[担当幹事団体] 難民を助ける会、日本 NPO センター

### [実施報告]

#### (1) 広報・对外情報発信

- ・会員獲得と、NPO/NGO 以外の団体も含む SR に関心のある組織への啓発を目的とし、本ネットワークのパンフレットを改訂した。会員団体事務所への設置、イベントでの配布などを通じ、広報に活用する。
- ・SR の概念浸透と、本ネットワークの存在意義や活動のアピールを目的に、ISO26000 や SR 円卓会議の動向、本ネットワークの活動告知や実働報告を行った。
- ・情報発信の作業の効率化とデザイン向上を狙い、ホームページの改定を行い、Facebook を開設した。  
<ウェブサイト> <http://sr-nn.net/>  
<Facebook サイト> <http://www.facebook.com/npongonetwork>
- ・より多くの NPO/NGO との連携を深め、NPO/NGO セクターとして SR を推進することを目指し、2013 年 3 月に会員拡大キャンペーンを行った。回答団体数が 9 団体だったため、2013 年度も継続したキャンペーンの実施を検討する。

#### (2) 会員向け情報発信の強化

SR 関連のイベント告知・報告、本ネットワークより代表協議者を出している SR 円卓会議や 2012 年国連持続可能な開発会議（リオ+20）、及び ISO26000 に関する最新情報について、会員向けメーリングリストを通じた情報発信を行った。また、毎月の幹事会の報告と議事概要も会員メーリングリストにて発信した。

### 3. 政策提言事業

#### [主旨]

社会的責任に関わる国際規格 ISO26000 発行および JIS 化を受けて国内の普及、啓発に関すること、日本国内の動きとしての SR 円卓会議の 2 つに絞った形で政策提言事業を推進する。後者の議論には、本ネットワークの代表協議者を会議に派遣し、その内容を広く本ネットワーク会員をはじめとする NPO/NGO 関係者と共有する。

#### <ISO26000 に関すること>

日本工業標準調査会は JIS 規格として JISZ26000 を 2012 年 3 月 21 日に制定した。本ネットワークは、引き続き、橋渡し役として、ISO26000 の推進（普及、啓発、規格活用のチェックなど）に努めて行く。普及・啓発に関して、本ネットワーク内の啓発チームとの共同事業や連携も適宜行いながら進める。

#### <社会的責任に関する円卓会議に関すること>

行動計画の 2 年目に入る本年も、運営委員会を中心として臨機に協議し続ける。「体制」に関しても、より実現可能性の高い方策を議論し続けており、4 つのテーマのうち 2 つのテーマについて NPO/NGO が主査を務めている本ネットワークは、積極的にかかわった。本年度も SR 円卓会議に本ネットワークの代表協議者が委員として参加すると同時に、NPO/NGO ステークホルダー間で意見交換を行い、「地域円卓会議」の推進など、「協働戦略」の実現に結び付ける。（※詳細は P2 及び P6）

[担当幹事団体] CSO ネットワーク、IIHOE（人と組織と地球のための国際研究所）、難民を助ける会、  
日本 NPO センター

#### [実施報告]

##### (1) ISO26000 発行後の情報共有など

ISO26000 の活用方法や、普及に関して元国内委員会委員らと情報共有や意見交換を行った。

##### (2) 他セクターの元エキスパートなどと共同でセミナーを実施

- ・ ISO26000 の策定に関わった元エキスパートの黒田かをりを、2012 年 11 月にジュネーブで開催された ISO26000 発行 2 周年を記念のオープンフォーラムに派遣した。なお、黒田は ISO26000 の発行後の組織（Post Publication Organization）の NGO ステークホルダーグループの準メンバーに選出された。
- ・ 2012 年 10 月 17 日および 2013 年 1 月 10 日に、元エキスパート、元国内委員会委員が集まって行った意見交換会に、黒田かをりと堀江良彰（元国内委員会委員）が参加し、上記ジュネーブでのオープンフォーラムの件を始め、ISO26000 の活用方法や、諸外国での適用事例、普及、PP0（発行後の組織）の動向などに関して情報共有や意見交換を行った。
- ・ 2012 年 12 月 18 日に啓発チームと連携して、「ISO26000 発行 2 周年フォーラム in ジュネーブ」参加報告会を開催した。（※詳細は P3）
- ・ リオ+20 国内準備委員会（計 9 回とワークショップ）に出席し、マルチステークホルダープロセスと市民参加の重要性を訴えた。提言は日本からの提言の中に盛り込まれた。NGO セクター内の代表者を選定するコーディネートをを行い、また、関連情報を会員メーリングリストを通じて伝えた。

### (3) 社会的責任に関する円卓会議の各ワーキングの行動計画に沿った NPO/NGO の取り組みの推進

SR 円卓会議に本ネットワークの代表協議者が委員として参加すると同時に、NPO/NGO ステークホルダー間で意見交換を行い、積極的な提案を行った。

#### ■SR 円卓総会

- ・2012年6月26日(火) 場所：内閣府

総会委員：太田 達男(公益財団法人公益法人協会理事長)

星野 昌子(特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター特別顧問)

特定非営利活動法人日本NPOセンター顧問)

堀田 力(公益財団法人さわやか福祉財団理事長)

#### ■SR 円卓運営委員会 (運営委員：田尻佳史 (特定非営利活動法人日本NPOセンター))

- ・2012年5月16日(水) 場所：内閣府
- ・2012年11月7日(水) 場所：内閣府
- ・2012年12月17日(月) 場所：内閣府

### (4) 社会的責任に関する円卓会議の行動計画のフォローアップ、協働プロジェクトの実施に向けたプロジェクトグループへの参加

各グループの責任の範囲において実施する各行動計画に沿った取り組みをフォローアップした。また、協働プロジェクトについても、引き続き、テーマごとにプロジェクトグループを結成し実施した。NPO/NGO ステークホルダー間で意見交換を行い、「地域円卓会議」の推進など、「協働戦略」の実現に結び付けた。

#### ■ともに生きる社会の形成ワーキンググループフォローアップ会合

- ・実施会合：第5回4/18, 第6回5/29, 第7回6/6, 第8回7/26, 第9回8/22, 第10回9/14, 第11回10/15, 第12回11/20, 第13回12/18, 第14回2/13 (計10回)

- ・5月18日SRフォーラム2012分科会3A)『多様性豊かな、誰もが排除されない社会』のために私達ができる具体的なこと—調査、比較、課題解決に向けたアクション—SR 円卓会議「ともに生きる社会の形成」WG 加来栄一委員(日本労働組合総連合会企画局長) 吉田拓野委員(内閣府政策統括官付参事官付参事官補佐)、矢野洋子委員(東京消費者団体連絡センター)、横田能洋委員(認定特定非営利活動法人茨城NPOセンター・コモンズ)が登壇。

- ・『「ともに生きる社会」のための暮らしやすさの10の指標」リーフレットを作成：6月26日総会において発表。

※具体的な指数の絞り込みにおいて、企業グループとの意見の乖離があることがわかり、労働・NPO・企業グループの委員間で話し合いを持った。現在、企業グループの合意を得るため、2012年6月26日の総会において承認されたリーフレットを改訂中である。

- ・勉強会の実施：第8回会合にて鎌田健司氏(国立社会保障・人口問題研究所・人口動向研究部研究員)を招いて、「指標の収集と分析手法」に関する勉強会を実施。

#### ■地球規模の課題解決への参画ワーキンググループフォローアップ会合

- ・実施会合：4/19, 6/29, 8/1, 9/19, 10/31, 12/4, 2013/1/15 (計7回)

- ・イベント“作戦会議”の開催：協働戦略において「2013年春に向けた成果」として挙げた、地球

規模課題に対する市民の理解と認知度向上を目指した。イベントは、各セクターで共に課題解決を目指すことから“作戦会議”と題し、7つのセクターから参加者を募り、第1回（2012/10/2）は、リオ+20（国連持続可能な開発会議）を題材に、地球規模課題への理解者を増やすために多様なセクターでできることについて、案を出し合った。第2回（2013/2/25）は、第1回にて“消費”の観点から問題意識をもつ必要性が多く挙げられたことから、“消費”を切り口に、地球規模課題を解決するための具体的な提案出しを行った。

#### ■人を育む基盤の整備ワーキンググループフォローアップ会合

- ・実施会合：6/6, 6/21, 12/6, 2013/2/20（計4回）
- ・協働戦略において検討された「持続可能な人材の育成に係る原則」づくり：有志で作成作業に入った。参加メンバーは、消費者グループ（NACS、全国消費者団体連絡会）、事業者グループ（日本経団連）、NPO/NGOグループ（本ネットワーク）、政府（消費者庁）。本ネットワークからはESD-J（村上さん）とCSOネットワークの黒田が参加。原則づくりのための会合は5回開かれた（2012/12/27, 1/15, 1/27, 2/7, 2/18）。原則は次回総会に提出する予定。協働プロジェクトとして参加している文部科学省主催の「消費者教育フェスタ」は神戸（1/30-31）と東京（2/27-28）で開催。ワーキンググループメンバーはシンポジウムや分科会に登壇。またNPO法人ACEが出展、参加した。

#### ■持続可能な地域づくりワーキンググループフォローアップ会合

- ・実施会合：12/26, 2013/2/20（計2回）
- ・参加グループ：金融、消費者、労働、NPO/NGO
- ・2011年度に発行したリーフレット「地域円卓会議のススメ」をもとに全国で徐々に地域円卓会議形式の場づくりが進んでいることを共有し、また各グループで取り組まれているマルチステークホルダーの取り組み、および「持続可能な地域づくり」に関する取り組みについて共有した。その結果、地域で円卓会議手法を説明し、啓発事業として実施していくこと、また多様な主体が参画する「持続可能な地域づくり」の各地の事例を集めて共有することの重要性を確認し、今後の種まきのために「これなら自分たちにもできる」という事例を多く紹介していくことを確認し合った。会合の中で共有した事例については記録をまとめ、ワーキンググループメンバー間で共有している。

## 2012 年度組織運営（事務局業務）報告

### <実施期間>

2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日

### <業務報告>

#### 1. 会議等の業務

##### （1）第 5 回 通常総会の開催

日 時：2012 年 5 月 18 日（金）10：00～12：00

会 場：早稲田奉仕園

会員団体：14 団体出席・委任状 9 団体、合計 23 団体が参加

議 題：

- ・ 2011 年度事業報告・決算の承認
- ・ 2012 年度事業計画・予算の承認
- ・ 次期幹事団体の就任について
- ・ 社会的責任に関する円卓会議委員の選出について

##### （2）幹事会の開催

- ・ 第 45 回幹事会 2012 年 4 月 19 日（木） 場所：日本NPOセンター
- ・ 第 46 回幹事会 2012 年 5 月 10 日（木） 場所：CS0 ネットワーク/DECO 事務所
- ・ 第 47 回幹事会 2012 年 6 月 19 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・ 第 48 回幹事会 2012 年 7 月 17 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・ 第 49 回幹事会 2012 年 8 月 21 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・ 第 50 回幹事会 2012 年 9 月 18 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・ 第 51 回幹事会 2012 年 10 月 16 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・ 第 52 回幹事会 2012 年 11 月 20 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・ 第 53 回幹事会 2012 年 12 月 18 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・ 第 54 回幹事会 2013 年 1 月 15 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・ 第 55 回幹事会 2013 年 2 月 19 日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・ 第 56 回幹事会 2013 年 3 月 19 日（火） 場所：日本NPOセンター

## 2. 会員に対する業務

### (1) 会員へのフォローアップ

- ・会員の入会案内、入金呼びかけを幹事会で手分けをして行った。

会員：目標 40 団体、入金団体 31 団体（目標まであと 9 団体）

サポーター会員：2 名（目標まであと 8 名）

- ・会員メーリングリストの運営・管理を行った。毎回の幹事会の議事概要・幹事会の案内を行った。

### (2) 会員データベース管理

- ・会員情報の整理と管理を行った。

## 3. 経理等の業務

### (1) 日常的な会計

- ・円滑に業務を行うために、現金等の動きについて記録し、資金の動きを明確にした。

### (2) 現金管理と検査

- ・現預金などの日常の管理状況を検査する業務を行った。

## 4. 総務関連の業務

### (1) ウェブサイト管理・運営に関する業務

- ・ウェブサイト内に SR 円卓会議の報告を掲載した。
- ・ウェブサイトのブログにおいて幹事会報告を掲載した。
- ・本ネットワーク主催イベントの広報を実施した。

### (2) 什器備品等の管理

- ・什器備品の発注や管理等についての業務を行った。

## 5. その他

- ・後援名義使用に関する規程を制定した。（2012 年 11 月）
- ・日本 NPO センターが事務局を担う。
- ・SR フォーラム 2012 の参加者で本ネットワークの事務局に関心のある人をインターン候補として受け入れを行った。